opusdei.org

## 黙想の祈り:四旬節 第2主日(B年)

黙想のテーマ:「アブラハム、信仰の模範」「神は御子を死に渡す」「神の声を聞く」

アブラハム、信仰の模範

神は御子を死に渡す

神の声を聞く

四旬節第二主日の今日はアブラハムの姿を観想することにします。アブ

ラハムは神のお望みに注意深く心を 傾け、神の招きに従って歩みまし た。創世記は、神がある日、驚くべ き頼みでアブラハムを試みられたこ とを語っています。それは、命の神 には相応しくないと思えることでし た。長年、希望のうちに祈り続けた 後、ついに息子イサクが生まれまし た。彼には多くの民となる約束がか かっていました。突然、主は、アブ ラハムがそれまでに聞いていたこと とは矛盾することを頼みます。「あ なたの息子、あなたの愛する独り子 イサクを連れて、モリヤの地に行き なさい。わたしが命じる山の一つに 登り、彼を焼き尽くす献げ物として ささげなさい」(創世記22・2)。

神の頼みは驚くべきものですが、アブラハムは直ちに応えます。「二人は一緒に歩いて行った。神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イザクを縛って祭壇の薪の上に載せ

た。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうともた」(創世記22·8-10)。理解することも受け入れることも非常に難にい神のみ旨ですが、アブラハムるのは揺らいだりためらったりするるのはおいません。「神が人を死者にいたから生き返らせることもおできなる」(ヘブライ書11·19)と、固く信じていたからです。

れたプランを受け入れます。あらゆる状況には明暗があるものです。

「彼はまったく『神のことばに服従する』心を持っており、それに従います」「II」。主への答えによって「アブラハムは、信仰をもって神のみ旨を信じ、それに従う者の模範となりました。み旨が難しいものであったり、不可解で悲劇的であった時でさえ模範的でした」「II」。

この神秘的な出来事の意味は、カルワリオの丘におけるキリストの贖いのいけにえで明らかになります。がカリアの地はまさしくエルサレムな場所です。成就されなかかけにえば、御父でおっかけにえの象徴が招いる教会を作るため、十字架よれている教会を作るため、十字架はでお亡くなりになりました。神はイ

サクを、またアブラハムの心をおゆるしになりましたが、御独り子にはそうなさらず、私たちすべてので大めに死にお渡しになったので、イウをいけにえにするばかりにましたが、となく御独り子をいけにえになったのです | 131。

両方の場面において、愛する息子を 捧げる父親の姿、父親の望みを進ん で受け入れる息子、そして山の上の 木(薪)の祭壇上でのいけにえがあ ります。アブラハムにとって息子を 捧げることは信仰の行為であり、父 なる神なるにとってそれは愛の行為 でした。キリストは愛されている存 在であり唯一の御子だからです。 ローマ書でパウロは、そのことを黙 想し、気持ちを高ぶらせながら言い ます。「もし神がわたしたちの味方 であるならば、だれがわたしたちに

喜びと悲しみに彩られた人間の出ていまけるイエスまけるイエれいりまたの光を通して理解されませい。また、おかいではないではない。というないできます。というないできます。というできまが私とができまがおことができまがいません。その時こその時こそので、その時こそので、その時こそので、その時こそので、その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないできまがないません。その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないで、その時にないではないではない。

以上に御父であられるのです。この ように聖ホセマリアは自身の体験か ら教えています。「この喜ばしい神 との父子関係に、私は絶えず支えを 求めてきました。どのような事情が あっても、時によって色合いは異 なったけれども、いつも神に申し上 げたものです。主よ、私をこのよう な場に置き、あれこれと仕事をお任 せになったのはあなたです。あなた を深く信頼いたします。あなたが私 の父であることはよく承知しており ます、と。子供たちが父親に全幅の 信頼を寄せる様子を幾度となく目に してきました | 141。

四旬節第二主日の福音は、私たちを別の山、タボル山の頂きに導きます。そこで私たちはイエスと語り合うモーセとエリアを目にします。不意に雲が彼らを覆い、同時に「これ

はわたしの愛する子。これに聞け」 (マルコ9・7)という天からの声を 聞きます。三人の使徒たち、ペトロ、ヤコブ、ヨハネはご変容の目撃 者です。それにも関わらず、彼らは 見ていることが分からなかったばかりか、後ほどイエスがご自分の死と 復活について話されたことの真意も 把握できませんでした(マルコ9・9,10 参照)。

- [1] カトリック教会のカテキズム、 2570番。
- [2] フランシスコ、一般謁見演説、 2020年6月3日。
- [3] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 1997年2月2日。

[4] 聖ホセマリア『神の朋友』143 番。

[5] ベネディクト十六世、「お告げ の祈り」のことば、2006年3月12 日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-shijyunsetsu-daini-shujitu/(2025/12/15)